

平成24年度(2012年度) 文学部専門教育科目授業日程計画

前 期								後 期										
曜日	日	月	火	水	木	金	土	備 考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備 考	
4 月	1	2	3	4	5	6	7	1日～7日 春季休業 1日 新入生オリエンテーション 2日 TOEIC-IPテスト 3日 履修相談会 8日 入学式、新入生オリエンテーション 9日 授業開始 29日 昭和の日 30日 振替休日	10 月			1	2	3	4	5	6	8日 体育の日 注：10日 月曜日の授業を行う。 22日 開学記念日
	8	9	10	11	12	13	14			7	8	9	10	11	12	13		
	15	16	17	18	19	20	21			14	15	16	17	18	19	20		
	22	23	24	25	26	27	28			21	22	23	24	25	26	27		
	29	30								28	29	30	31					
5 月			1	2	3	4	5	注：1日 月曜日の授業を行う。 注：2日 金曜日の授業を行う。 3日 憲法記念日 4日 みどりの日 5日 こどもの日	11 月					1	2	3	3日 文化の日 【23日～25日 大学祭】 22日 午前：補講日 22日 午後：臨時休業(大学祭準備) 23日 勤労感謝の日 26日 全日：臨時休業(大学祭後片付け) 注：27日 月曜日の授業を行う。	
	6	7	8	9	10	11	12			4	5	6	7	8	9	10		
	13	14	15	16	17	18	19			11	12	13	14	15	16	17		
	20	21	22	23	24	25	26			18	19	20	21	[22]	23	24		
	27	28	29	30	31					25	26	27	28	29	30			
6 月						1	2	16日 海の日	12 月							1	23日 天皇誕生日 24日 振替休日 25日～1月7日 冬季休業	
	3	4	5	6	7	8	9			2	3	4	5	6	7	8		
	10	11	12	13	14	15	16			9	10	11	12	13	14	15		
	17	18	19	20	21	22	23			16	17	18	19	20	21	22		
	24	25	26	27	28	29	30			23	24	25	26	27	28	29		
7 月	1	2	3	4	5	6	7	1日 元日 注：7日は冬期休業日であるが授業を行う。 14日 成人の日 注：15日 金曜日の授業を行う。 18日 センター試験実施に伴う臨時休講 19日・20日 大学入試センター試験	1 月			1	2	3	4	5	11日 建国記念の日 13日～15日 補講日 13日～3月31日 臨時休講 25日・26日 一般入試(前期日程)	
	8	9	10	11	12	13	14			6	7	8	9	10	11	12		
	15	16	17	18	19	20	21			13	14	15	16	17	18	19		
	22	23	24	25	26	27	28			20	21	22	23	24	25	26		
	29	30	31							27	28	29	30	31				
8 月			1	2	3	4	1日～9月30日 夏季休業 注：1日～2日は夏季休業日であるが授業を行う。 3日～4日 オープンキャンパス 6日～8日 補講日 13日～15日 夏季一斉休業 21日～24日 集中講義A 28日～31日 集中講義B	2 月						1	2	12日 一般入試(後期日程) 20日 春分の日 25日 卒業式		
	5	[6]	[7]	[8]	9	10			11	3	4	5	6	7	8		9	
	12	13	14	15	16	17			18	10	11	12	[13]	[14]	[15]		16	
	19	20	21	22	23	24			25	17	18	19	20	21	22		23	
	26	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28				
9 月							1	4日～7日 集中講義C 11日～14日 集中講義D 17日 敬老の日 18日～21日 集中講義E 22日 秋分の日 24日～27日 集中講義F	3 月						1	2	臨時休講	
	2	3	4	5	6	7	8			3	4	5	6	7	8	9		
	9	10	11	12	13	14	15			10	11	12	13	14	15	16		
	16	17	18	19	20	21	22			17	18	19	20	21	22	23		
	23	24	25	26	27	28	29			24	25	26	27	28	29	30		
	30									31								
前期計	16	16	16	16	16			授業週数 (含試験)	後期計	16	16	16	16	16			授業週数 (含試験)	

5月1日を含む ↑ ↑ 5月2日を含む 10月10日及び11月27日を含む ↑ ↑ 1月15日を含む

- 注) 1. [] は休業日及び臨時休講, 【 】 は補講日を示します。
 2. 夏季休業・冬季休業期間中においても授業・試験を行うことがあります。
 3. 前期卒業予定者は集中講義を履修できません。集中講義の詳細は、別途掲示します。
 4. 上記日程計画以外の休講、補講等については別途掲示します。

6. 岡山大学文学部履修細則

次頁からの卒業資格単位数及び副専攻コース修了資格単位数等は、入学した年度の学生便覧に掲載されているものが適用されるので、注意してください。(ただし、編入学・転学部等の場合を除く。)

第1条 この細則は、岡山大学文学部規程第8条第4項の規定に基づき、岡山大学文学部（以下「本学部」という。）における授業科目の単位の履修方法について必要な事項を定めるものとする。

第2条 本学部の学科に、それぞれ次のとおり各専修コース及び副専攻コースを設ける。

- 2 学生は、入学後指定の期日までに、所属を希望する専修コースを学部長に届け出て許可を受けなければならない。
- 3 前項の希望者が専修コースごとの収容限度数を超える場合は、選考の上、所属を決定する。
- 4 所属した専修コースの変更を志望するものがあるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

学科	専修コース	副専攻コース
人文学科	哲学芸術学専修コース 行動科学専修コース 歴史文化学専修コース 言語科学専修コース 言語文化学専修コース	英語副専攻コース ドイツ語副専攻コース フランス語副専攻コース 中国語副専攻コース

第3条 各専修コースの卒業資格単位数及び各副専攻コースの修了資格単位数は、別表に掲げるとおりとする。

附 則

- 1 この細則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 平成6年度以前の入学者については、なお従前の例による。

(附 則 以下中略)

附 則

- 1 この細則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成23年度以前の入学者については、なお従前の例による。

人文学科 哲学芸術学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり, 6 単位	3.2単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
外国語科目	英語(ネイティブ)	2単位			
	基礎英語は卒業資格単位 として認めない。	1.2単位			
専門教育科目	必修科目	人文学への招待(哲学芸術学) 人文学への招待(行動科学) 人文学への招待(歴史文化学) 人文学への招待(言語科学) 人文学への招待(言語文化学)	2単位	1年次前期	
		人文学入門演習(哲学芸術学) 人文学入門演習(行動科学) 人文学入門演習(歴史文化学) 人文学入門演習(言語科学) 人文学入門演習(言語文化学)	2単位	1年次後期	
	専門 科 目	哲学概説1 哲学概説2 倫理学概説1 倫理学概説2 芸術学概説1 芸術学概説2 芸術表象論概説1 芸術表象論概説2 美術史概説1 美術史概説2 思想史概説1 思想史概説2	8単位	1～3年次	
		哲学講義 倫理学講義 美学講義 芸術学講義 芸術表象論講義 日本美術史講義 西洋美術史講義 思想史講義	8単位	2～4年次	
		哲学演習 倫理学演習 美学演習 芸術学演習 芸術表象論演習 日本美術史演習 西洋美術史演習 思想史演習	8単位	2～4年次	
		哲学芸術学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
		自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4.6単位	1～4年次
	専門科目	卒業論文	1.0単位	4年次	
合計単位			12.4単位		

人文学科 行動科学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	32単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
	外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位	基礎英語は卒業資格単位 として認めない。	12単位
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
			人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期
			心理学概説1 心理学概説2 人文地理学概説 自然地理学概説 社会学概説1 社会学概説2 文化人類学概説1 文化人類学概説2 社会文化学概説	8単位	1～3年次
			心理学講義 地理学講義 地誌学講義 社会学講義 文化人類学講義 社会文化学講義	8単位	2～4年次
			心理学演習 地理学演習 社会学演習 文化人類学演習 社会文化学演習 行動科学実験・調査演習	8単位	2～4年次
		行動科学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	46単位	1～4年次	
専門科目	卒業論文	10単位	4年次		
合計単位			124単位		

人文学科 歴史文化学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	32単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位	基礎英語は卒業資格単位 として認めない。		
		12単位			
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
		人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期	
		日本史概説1 日本史概説2 アジア史概説1 アジア史概説2 西洋史概説1 西洋史概説2 考古学概説1 考古学概説2	8単位	1～3年次	
		日本史講義 アジア史講義 西洋史講義 考古学講義 比較宗教史講義 文化交流史講義	8単位	2～4年次	
		日本史演習 アジア史演習 西洋史演習 考古学演習	8単位	2～4年次	
		歴史文化学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	46単位	1～4年次	
専門科目	卒業論文	10単位	4年次		
合計単位			124単位		

人文学科 言語科学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	3.2単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
	外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位	1.2単位	
基礎英語は卒業資格単位として認めない。					
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
			人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期
		言語学概説 日本語学概説1 日本語学概説2 英語学概説 ドイツ語学概説 フランス語学概説	8単位	1～3年次	
		言語学講義1 言語学講義2 言語学講義3 日本語学講義1 日本語学講義2 英語学講義 ドイツ語学講義 フランス語学講義	8単位	2～4年次	
		言語学演習1 言語学演習2 言語学演習3 日本語学演習 英語学演習 ドイツ語学演習 フランス語学演習	8単位	2～4年次	
		言語科学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
		自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4.6単位	1～4年次
	専門科目	卒業論文	1.0単位	4年次	
合計単位			12.4単位		

人文学科 言語文化学専修コース
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位	配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位	1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上の グループに わたり、6 単位	3.2単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
外国語科目	英語（ネイティブ）	2単位			
	基礎英語は卒業資格単位として認めない。	1.2単位			
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待（哲学芸術学） 人文学への招待（行動科学） 人文学への招待（歴史文化学） 人文学への招待（言語科学） 人文学への招待（言語文化学）	2単位	1年次前期	
		人文学入門演習（哲学芸術学） 人文学入門演習（行動科学） 人文学入門演習（歴史文化学） 人文学入門演習（言語科学） 人文学入門演習（言語文化学）	2単位	1年次後期	
		日本語文化学概説1 日本語文化学概説2 中国言語文化学概説1 中国言語文化学概説2 英米言語文化学概説1 英米言語文化学概説2 ドイツ言語文化学概説1 ドイツ言語文化学概説2 フランス言語文化学概説1 フランス言語文化学概説2	8単位	1～3年次	
		言語文化学講義 日本語文化学講義 中国言語文化学講義 英米言語文化学講義 ドイツ言語文化学講義 フランス言語文化学講義	8単位	2～4年次	
		言語文化学演習 日本語文化学演習 中国言語文化学演習 英米言語文化学演習 ドイツ言語文化学演習 フランス言語文化学演習	8単位	2～4年次	
		言語文化学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次	
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4.6単位	1～4年次	
専門科目	卒業論文	1.0単位	4年次		
合計単位			12.4単位		

備考

1. 自由科目とは、各専修コースにおいて、必修科目として指定された科目以外の専門教育科目をいう。これは、他学部開講の専門教育科目を含むものとする。
また、必修科目として規定された単位数を超えて修得した単位もこの科目の単位とすることができる。
2. 年次とは、入学後の年数をいい、入学後1年目を1年次、2年目を2年次、3年目を3年次、4年目を4年次という。
3. 外国人留学生にあつては、教養教育科目の外国語科目のうち、英語（ネイティブ）2単位を他の外国語科目の単位をもって換えることができる。

人文学科 フランス語副専攻コース

授業科目の履修方法

フランス語副専攻コースは1年次より開講する。

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序
教養教育科目	外国語科目	フランス語初級Ⅰ	修得することが望ましい。	履修1年目
		フランス語初級Ⅱ		
		フランス語中級	修得することが望ましい。	履修2年目
専門教育科目	専 門 科 目	フランス語コミュニケーション1	2単位	履修1年目
		フランス語コミュニケーション2	2単位	
		フランス語作文1	2単位	履修2年目
		フランス語作文2	2単位	
		フランス語コミュニケーション3	2単位	
		フランス語コミュニケーション4	2単位	
		フランス文化総合演習1	2単位	
		フランス文化総合演習2	2単位	
		フランス語作文3	2単位	履修3年目
		フランス語コミュニケーション5	2単位	
		フランス語コミュニケーション6	2単位	
		フランス文化総合演習3	2単位	
合計単位			24単位	

人文学科 中国語副専攻コース

授業科目の履修方法

中国語副専攻コースは1年次より開講する。

【Aコース】

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序
教養教育科目	外国語科目	中国語初級Ⅰ	修得することが望ましい。	履修1年目
		中国語初級Ⅱ		
専門教育科目	専 門 科 目	中国語コミュニケーション1	2単位	履修1年目
		中国語コミュニケーション2	2単位	
		中国語中級1	2単位	履修2年目
		中国語中級2	2単位	
		中国語中級3	2単位	
		中国語中級4	2単位	
		中国語コミュニケーション3	2単位	
		中国語コミュニケーション4	2単位	
		時事中国語1	2単位	履修3年目
		時事中国語2	2単位	
		中国語上級	2単位	
		中国社会文化学演習	2単位	
合計単位			24単位	

【Bコース】

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 名	修了資格単位	履修順序
教養教育科目	外国語科目	中国語初級Ⅰ 中国語初級Ⅱ	修得することが望ましい。	履修1年目
専門教育科目	専 門 科 目	必 修 科 目		
		中国語コミュニケーション1	2単位	履修2年目
		中国語コミュニケーション2	2単位	
		中国語中級1	2単位	
		中国語中級2	2単位	
		中国語中級3	2単位	
		中国語中級4	2単位	
		中国語コミュニケーション3	2単位	
		中国語コミュニケーション4	2単位	
		時事中国語1	2単位	履修3年目
		時事中国語2	2単位	
		中国語上級	2単位	
		中国社会文化学演習	2単位	
合 計 単 位			24単位	

7. 履修に関する事項

- 1 授業科目は、それぞれの配当年次に履修するものとする。
- 2 学生は、卒業要件科目・単位数等を考慮のうえ履修すること。なお、卒業要件科目・単位数は入学年度の学生便覧（履修細則）によること。
- 3 他学部開講の科目（教職関係科目を含む。）を履修する場合は、当該科目の開講される学部において、時間割、シラバス等を確認した後、本学部で履修手続きをとらなければならない。
- 4 教養教育科目の履修は、年間32単位を限度とする。
*履修登録をして「不可」又は「F」となった科目、「人文学の基礎（平成21年度以前入学生については基礎科目1）」、「大学コンソーシアム岡山中で履修した科目（教養教育科目に限る。）」及び「岡山オルガノンで履修した科目（教養教育科目に限る。）」の単位は上記32単位に含まれます。入学時のTOEIC-IP試験等により認定された単位は含まれません。
*これは、履修上限についてのもので、卒業資格単位とは異なります。例えば、TOEIC-IP試験で認定された単位は履修の上限に含まれませんが、卒業資格単位としては認められます。
*なお、平成20年度以降入学生について、教養教育科目の「基礎英語」は上記32単位に含まれません。
- 5 履修手続は、通常の開講科目と集中講義に分けて手続期間が定められており、それぞれについてWeb登録により手続しなければならない。
*各年度の通常科目及び集中講義の履修登録期間は別途掲示により通知します。
- 6 留学後の取扱いについて
 - (1) 専門教育科目の履修手続等について
前期終了科目については、渡航前に単位修得を認める。
 - (2) 留学大学で修得した単位の取扱い
留学大学で修得した単位は、60単位を限度とし、教育委員会の議を経て、本学での修得単位として認定することがある。
なお、3年次後期から4年次間の留学の場合には、留学先の大学で修得した単位のうち、各専修コースの課題演習科目2単位を修得単位として認定することがある。
- 7 試験心得（専門教育科目）
専門教育科目の期末試験（平常の考査を含む。）の受験にあたっては、次の各事項に留意すること。
 - (1) 受験の際は、必ず学生証を携帯すること。
 - (2) 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。なお、監督者の指示に従わないとき、又は不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条により厳重な懲戒処分を行う。

8. 「専修コース課題演習」履修に係る取扱いについて

平成16年度以降入学者が履修する「専修コース課題演習」については、卒業論文の執筆に向けての段階的な指導を前提に開講するものであり、原則として3年次後期から4年次後期にわたって、ひとつの専門領域等で継続して履修することとし、履修方法の詳細については各専修コースで定めるものとする。

9. 岡山大学文学部成績評価基準

岡山大学文学部規程（平成16年岡大文規程第1号）第10条の規定に基づき、岡山大学文学部成績評価基準を次のように定める。

- 1 成績評価は、出席状況、受講態度、報告・発表状況、レポート、試験など多様な要素を組み合わせで行うものとする。一回の試験又は一回のレポート提出のみで成績評価を行うことはしない。
- 2 試験、レポート等は、成績評価の際に、受講及び受講のための学習準備を通じて得られた学習成果が、適切に反映されるよう課題設定を工夫するものとする。
- 3 各授業科目の成績評価の方法等は、シラバス（講義要覧）に明記するとともに、各授業において、学習目標と関連付けながら説明するものとする。また、優、良、可及び不可（平成20年度以降入学生にあつては、A+、A、B、C及びF）等の区分についても併せて説明する。
- 4 ガイダンス科目及び外国語科目のように、性格を同じくする授業科目を複数コマ開講する場合の成績評価の方法等は、担当教員による評価の差が生じないように、相互に調整し、可能な限り統一するものとする。また、1授業科目を複数の教員で担当する場合も同様とする。
- 5 卒業論文の評価は、次の項目等について、総合的に行うものとする。
 - ① 論文としての形式を満たしているか。
 - ② 必要な調査や実験、または文献の収集を行い、かつ適切な分析が行われているか。
 - ③ 論文のテーマ、目的、方法が明確であるか。また、論旨が明晰であり、言語表現が適切であるか。
 - ④ 口述試験において質問に適切に答えられたか。なお、論文の形式等については、3年次後期のもしくは4年次前期の課題演習において、担当の教員が指示するものとする。
- 6 成績評価に関する学生の質問及び疑問等には、適切に対応するものとする。

10. 岡山大学の試験等における受験心得

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。（不明な点については授業担当教員へ確認してください。）

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて出すと当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。
なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。
また、不正行為を行った場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

11. 就業体験実習（インターンシップ）の履修について

就業体験実習の概要

1. 趣旨・目的
本実習は、在学中に一定期間、学外の一般事業所において就業体験を行うことにより社会的な知見を身につけるとともに、自らに適したキャリアを開発することを目的とする。
2. 対象学生
原則として3年次生とする。
3. 実施時期等
実習の実施時期は、原則として夏季休業中の2週間とする。
実習の実施にあたって、学生は受入機関からの報酬等は受けないものとする。
4. 実習内容等
実習内容は、原則として、受入機関の予定しているものを文学部学生生活委員会が確認し、承認するものとする。
5. 単位認定等
文学部学生生活委員会は、学生の提出する「実習結果報告書」、受入機関の「インターンシップ実施評価報告書」及び指導教員の「実習指導意見書」に基づき、単位の認定を行う。
6. 事故対策
実習中の事故に対処するため、学生は学生教育災害傷害保険及び賠償責任保険等に加入するものとする。
7. 守秘義務
実習中に学生が知り得た受入機関に関する情報については、守秘義務を負うものとする。
8. 運営機関
本実習の運営は、文学部学生生活委員会が行う。

授業科目区分	専門科目
授業科目	就業体験実習（インターンシップ）
単位	2単位
実施時期	原則として夏季休業中2週間
配当年次	3年次生
履修手続	詳細については別途掲示する。

12. 卒業論文について

卒業論文の申告事項について

- 1 人文学科の課程を修め学士の学位を得るためには、卒業論文の審査に合格し、その成績をもって所定の単位の一部を満たさなければならない。
- 2 卒業論文提出予定者は、指導教員を通じて、所定の様式により研究テーマ届を10月31日午後 5時15分までに教務担当に届け出ること。
なお、当日が休日（土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日をいう。以下同じ。）の場合は、その翌日の午後 5時15分までとし、連休となる場合は、最終休日の翌日の午後 5時15分までとする。
- 3 卒業論文は、所定の手続に従い、1月31日午後 5時15分までに教務担当に提出すること。
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 4 前期卒業を希望する者は、4月30日午後 5時15分までに指導教員を通じて教務担当に所定の手続を行い、7月31日午後 5時15分までに教務担当に卒業論文を提出すること。
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 5 卒業論文の成績審査は、論文 1点につき 2人以上の教員がこれにあたり、各々の点数の平均点をもって専門科目10単位の成績とする。
(注) 論文の形式については、指導教員の指示を受けること。

13. 文学部既修得単位の認定内規

第 1 条 この内規は、文学部規程第 19 条第 1 項の規定に基づき、既修得単位の認定に関し、その取扱いを定める。

第 2 条 既修得単位の認定の出願資格は、次のとおりとする。

- 一 大学（外国の大学を含む。）又は短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者又は退学した者
- 二 科目等履修生として単位を修得した者

第 3 条 認定できる授業科目の区分及び認定単位は、次のとおりとする。

- 一 教養教育科目のうち外国語科目 8 単位まで
- 二 前号以外の教養教育科目 12 単位まで
- 三 専門教育科目 10 単位まで

第 4 条 既修得単位の認定を受けようとする者は、指定する日までに、次の書類を学部長に提出しなければならない。

- 一 既修得単位認定願（本学部所定の様式）
- 二 卒業証明書又は在学期間証明書
- 三 成績証明書及び講義内容を明示できるもの（講義概要等）

第 5 条 認定された授業科目は、卒業要件単位数とする。なお、成績評価の表示は「認定」とする。

(附則 省略)

14. 外部検定試験等による単位認定について

文学部規程第 15 条第 1 項及び第 19 条第 2 項に基づき、文部科学大臣が定める学修の単位認定について、また、文学部規程第 14 条に基づき、大学間交流協定大学等の語学研修により修得した単位の単位認定について、次のとおり申し合せる。

1. 単位認定に関する基準等は、「外部検定試験等による単位認定基準に関する取扱要項」（平成 16 年 4 月 1 日学長裁定）の別表（以下、「取扱要項別表」という。）による。
2. 取扱要項別表第 8（大学間交流協定に基づく語学研修の学修成果に係る取扱い）のうち南オレゴン大学またはアデレード大学を研修先とする場合の認定科目及び単位数は『英語コミュニケーション 1』2 単位とする。
3. 取扱要項別表第 9（外部機関に委託して実施する語学研修の学修成果に係る取扱い）のうちエクセター大学を研修先とする場合の認定科目及び単位数は『英語コミュニケーション 1』2 単位とする。
4. 申請の方法は、所定の様式に成績証明書等を添えて、7 月又は 2 月の指定する期日までに提出するものとする。なお、大学間交流協定による語学研修に係るものにあつては帰国後速やかに提出するものとする。
5. 単位の認定は、教授会において行う。
6. この申し合わせは、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。ただし、外部機関に委託して実施する語学研修の学修成果に係る取扱いについては、平成 23 年度に実施される語学研修より適用する。